

課題番号25 担い手を核とした持続可能な経営体の育成

～ 共に協力して何事も成功しよう ～

対象：沼田町共成地区（16戸）

1 活動の背景

<p>現状</p> <p>水稻反収：559kg/10a (H30～R2平均) 町平均より30kg/10a多い</p> <p>経営主の平均年齢：47歳</p> <p>平均耕地面積：23.9ha（町平均並）</p>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が働けなくなったときの労働力不足対策⇒効率化・省力化への対応 ・若手農業者のスキルアップ ・情報交換の場の創設
---	---

2 活動の経過

(1) 担い手のスキルアップ

ア 水稻育苗管理技術の改善⇒対象16戸 イ 水稻本田の施肥改善⇒対象 若手7戸

○チェックシート活用による技術改善
⇒ 育苗研修会（写真1）、視察

○リン酸減肥による施肥改善
⇒ 施肥設計、生育・収量調査、現地研修会

(2) 効率的な農作業体系の確立⇒対象16戸

○水稻疎植栽培の導入取組支援
⇒ 生育・収量と労働時間調査、経済性調査



写真1 育苗研修会にて日頃の疑問点を参加者で共有

3 成果の具体的内容

(1) 担い手のスキルアップ

ア 水稻育苗管理技術の改善（改善戸数：目標10戸 ⇒ 実績10戸）

○対象全戸が育苗管理チェックシートを活用して育苗に取り組んだ

○**10戸が従来からの課題であった苗の徒長を抑えて、育苗管理を改善した**（写真2）

○R3年と比べて管理が大きく改善できた内容

- ・出芽揃いまでの適温管理
- ・1.5～3.0葉期までのかん水抑制
- ・家族内での育苗管理の話し合い

○育苗管理を改善した10戸では苗質も改善できた

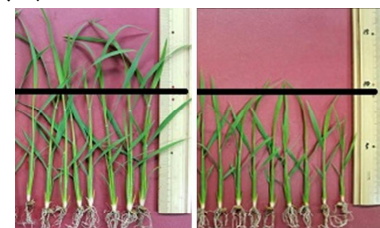


写真2 苗質の改善（E農家）
（左 R3、右 R4、横線は10cm）

★農業者の声

- ・かん水回数を減らし、徒長せず良い苗になった！
- ・健苗だと移植後の植え傷みがなくなるね！
- ・チェックシートがあるから家族内で育苗管理の話しやすくなった！

表1 育苗管理改善による苗質改善状況

農家	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
R4年	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑

R3年対比：改善（苗の徒長を抑えることができた農家）☑、横ばい☐

イ 水稲本田の施肥改善（改善戸数：目標2戸 ⇒ 実績2戸）

○**土壤診断値からリン酸過剰の2戸が減肥銘柄による栽培に取り組んだ**
 → **初期生育・収量は変わらず、生産コスト削減への理解が深まった**
 → **肥料高騰の情勢から、次年度は減肥銘柄への変更が進む見込み**

表2 リン酸減肥による経済性

	粗収入 ①	肥料費 ②	差引収入 ①-②
慣行	100%	100%	100%
減肥	107%	84%	109%

※ 取組農家2戸の平均値
 ※ 慣行100とした数値

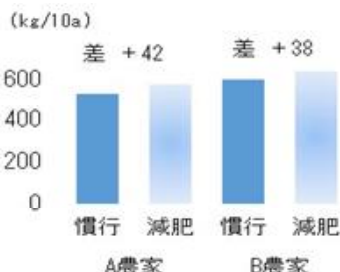


図1 リン酸減肥収量調査結果

★農業者の声

- ・展示ほ視察や研修会に参加して、リン酸減肥による差は無いことがわかった！
- ・緩効性肥料による減肥はどのようなの？
- ・試験的に減肥栽培してみようかな？

(2) 効率的な農作業体系の確立

ア 水稲の効率化・省力化技術の導入（改善戸数：目標5戸 ⇒ 実績5戸）

○**省力化を目指した疎植栽培に5戸が取り組んだ**
 → **疎植栽培の効果と留意点への理解が深まった**

○疎植栽培による効果と留意点

- ・育苗面積が減少、育苗経費は慣行栽培対比62%に削減
- ・労働時間（苗積込+植付）は78%に削減
- ・収量はやや低く、蛋白質含有量はやや上昇する傾向があることに留意が必要



写真3 現地研修会で疎植栽培の特性を学習

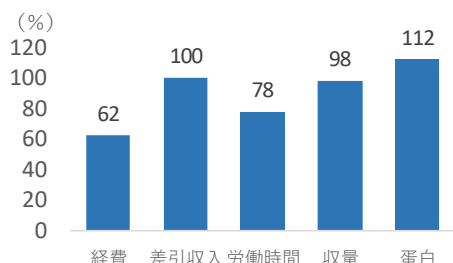


図2 疎植栽培調査結果

（育苗の経費・差引収入、労働時間、収量、蛋白）
 ※取組農家5戸（ななつぼし2戸、きらら397 3戸）の平均値
 ※労働時間：苗積込+植付時間
 ※慣行を100とした数値



写真4 疎植と慣行の生育状況
 左：疎植区 右：慣行区
 株間28cm 株間14cm
 38.4本/株 20.7本/株
 (8月17日調査：きらら397)

★農業者の声

- ・展示ほを見て、リスクは少ないことがわかったよ！
- ・育苗ハウスの棟数が減って、苗の積込回数も減るので、育苗管理や苗運搬が楽になるね！
- ・来年ハウス1棟分、疎植栽培に取り組んでみようかな？

4 今後の課題と対応

(1) 担い手のスキルアップ

ア 水稲育苗管理技術の改善

- ・一定の改善・定着がなされたことから本年度で終了
- ・要改善の農業者に対しては、個別巡回により支援を継続する。

イ 水稲本田の施肥改善

- ・土壤診断に基づく施肥改善（特にリン酸減肥）を次年度も継続して行う。

ウ 転作品目（畑作・園芸）の収量・品質向上のため、課題設定し技術支援を行う。

(2) 効率的な農作業体系の確立

ア 水稲の効率化・省力化技術の導入

- ・疎植栽培のポイントをチェックシートで確認し、安定生産技術の支援を行う。
- ・将来的な労働不足等の懸念解消に向けた作業体系の検討を継続して行う。